
精霊サマは、恋愛相談人？

はなぶた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

精霊サマは、恋愛相談人？

【Nコード】

N8346T

【作者名】

はなぶた

【あらすじ】

きれいな花には棘がある。

地球での人生を終えた杏里の次の人生は精霊としてカップリングをすることだった！！？？

不定期更新になります。

初心者なので、至らないこともあることかと存じますが
よろしくお願い致します。

完璧な私

私、長谷部杏里は非現実的な状況に直面していたそれは、1時間前の事だった・・・

容姿端麗、成績優秀、スポーツ万能
それが、私を表す言葉
モデルにもスカウトされたことがある。

可愛いこつてそれだけで有利だよね

そんなことを言われたことも1度や2度じゃない。
ふざけんなって感じ

私の今は、努力の結晶
努力もしないで可愛くなろうなんて都合が良すぎる
私は絶対認めない。

そう思い生きてきた26年間
私の人生は呆気なく終わった

嫉妬、やつかみ、期待

この世に疲れていた私は、ぼーっと歩いていた。
最後に聞いたのは、車のブレーキ音と誰かの悲鳴だった・・・

完璧な私（後書き）

なんと言うかスミマセン！！

頑張って参りますので

暖かい目で見守ってください！！！！

精霊になった私

実に非現実的だ

気が付いて1番に思ったことがそれだった
ここが世間で言う天国だろうか？

そう思いながらしばらく辺りを見まわした。

何もない・・・

言葉どうり何もない真っ白な世界

自分が立っているのかういているのかも解らない

しばらくボーっとしていると眩い光とともに1人の女性が現れた
その人を言葉で表すならまさに女神

知性と美をかね揃えた女神と呼ぶにふさわしい女性だった

「ふふっ驚かせたかしら？私の名はアイーシャ、
地球とは別の世界で愛の女神をしているの。」

私はとても驚いたが何故か自然と納得していた。

私の方も自己紹介を済ませ、しばらく話をしていた。

そうして分かったことがある。

- 1、アイーシャの世界では今、愛に対して消極的らしい
- 2、私には、愛の精霊として愛の素晴らしさ、もとい恋愛相談を受けて欲しいということ

「面白そうね。」

私の眩きをアイーシャはしっかり聞いていたらしい。

「じゃあやってくれるのね？よかったわあ、断られたらどうしようかと思っていたの、これで安心ね！

場所は最新しい愛の神殿が王都に出来たから

そこにしよう？自由に使ってくれてかまわないから！！」

次の瞬間、私は眩い光に包まれていた

精霊になった私（後書き）

疲れた

王都

ここ、フェルナン王国の王都に新しい神殿が出来た。

最近フェルナンでは子供の数が減ってきている。

前の、結婚適年齢は16〜24だったが、
いまでは、26〜34位なのだ。

30を過ぎても子供は産める。

しかし、三人も四人も言うわけにはいかない。
となるとやはり子供の数は減っていく。

その問題を解決するために、王は考え思い出した。
フェルナンに伝わる言い伝えを・・・

人々の心は愛を忘れた

戦、金、

欲に心を奪われた

かつて栄えた都は滅びゆく

賢王は最後の望みと愛を唱えた

美しき神殿を建て

愛の女神アイーシャに願った

愚かな我らに救いの手をと

人々の心に愛をと

空の月が満ちた時

王も望みを捨てかけたとき

月から光が降り注ぐ

女神アイーシャと共に

降りてきたのは

美しき精霊

精霊はただただ愛を唱えた

人は心を取り戻し

都はかつてをとりもどした

王はこの言い伝えを

復活させようと言ったのだ

王は愛を願ひ

神殿を建てた

そして訪れた月の満ちる日

神殿に光が降り注ぎ

美しき精霊が舞い降りた

王都（後書き）

杏里とアイーシャの話の裏
フェルナンでの話でした。

私のパートナー

アイーシャに送られた場所は神殿・・・？
ではなく、また別の空間だった。

「ここでは、そなたのパートナーを見つける」

背後からの声に驚き振り返る。

全く気配がなかった。

声の主も神か何かなのだろうか？

振り向いた先には・・・

「鶏？」

「ふむ、そなたの言うニワトリ？が何かは知らんが
私は精霊王、新しく生まれた精霊にたった一つの
パートナーを付けるのが仕事だ」

とても凛々しい鶏冠の鶏（自称精霊王）が言うには
新しく生まれた精霊、つまり私のような精霊は、
自分だけのパートナーを見つけなければならぬらしい

「わかったわ、それでどうすればいいの？」

「まあ、そなたの呼び出せる精霊を呼び出すがよい
呼び出せる精霊はそなたの持つ力によって変わる
強く念ずれば呼び出せるだろうよ」

だろうってなんだだろうって・・・

まあとにかくやるしかない

ゆっくりと目を閉じ
願う

強く強く・・・お願い！！現れて！！！！

おそろおそろ目を開けると

いた・・・

姿形はオオカミのようだがなにもかもが
規格外だった。

高さは4メートルほどあり鼻から尾まで

10メートルはありそうだ

そして、その毛並みは艶やかな

白銀だった

「この子が私のパートナー？」

精霊王を振り返ると

神妙な顔つきの鶏が頷いた。

「うむ、まだ決まったわけではない

そなたが名を呼びそれをそやつが受け入れれば
契約は完了となる。そやつにはまだ名がない
そなたが自由に決めると良い」

名前・・・

「ルーファあなたの名前はルーファ」

「ルーファ・・・素敵な名前をありがとう」

この瞬間私のパートナーが決まった。

私のパートナー（後書き）

ルーフアのイメージはもの○け姫の
モロです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8346t/>

精霊サマは、恋愛相談人？

2011年10月9日08時13分発行